

水と建築

—水の多面的効果による建築空間の創出—

*設計趣旨

古来から、文明発展の源泉として水の存在は重要な役割をはたしてきた。

水はその利用法によって、生活の場を築かせる媒体であったり、コミュニケーションを誘発する媒体になったりと、人間にとって密接な関わりを持っている。人間の生活が水を中心にして行われてきたことは、歴史的事実である（参考1）。

そして、水自身の持っている性質はとても多面的である。

水面があれば、雨が降っているのか・太陽が照っているのか・風が吹いているのかを、水によって読み取ることができる。

水は、鏡のような効果を持ち、ごくわずかな外的影響にも反応し、時にはその影響を増幅したり、惹き立てたりと、環境を構成する物質である（参考2）。

さらには、人間の行動や行為に与える影響も様々である。

流れる水や澄んだ水・花びらを漂わせて運ぶ水。あるいは、空間をまとめたり隔てたり、その感じる内容によっては、人間の心を穏やかに、時には脅威を抱かせたりと、人間の心理に働き掛ける物質でもある。

水は、環境構成物質でありながら、その多様な作用や姿を通じて人間の行動や心理に働きかけ、自然と共有環境を創出する媒体の役割を果たすものである（参考3）。

本提案は、水を、建築内部に引き込む。

さらに、建築を構成する要素であり、空間に場を与える柱と、空間の領域を定める屋根の関係を多様にすることで、水の効果を演出する。

水・柱・屋根で再構成した建築によって、多彩な自然を感じることでできる空間を創出する。



水と建築 - 水の多面的効果による建築空間の創出 -

臨川で流れてきた雫を見つけて、川上に住んでいる人がいることを察知した。（「八坂天竺」より）

古来から、文明発展の源泉として水の存在は重要な役割をはたしてきた。水はその利用法によって、生活の場を繋げる媒体であったり、コミュニケーションを誘発する媒体になったりと、人間にとって密接な関わりを持っている。古来から現代に至るまで水は、人間が生存するために欠かせないものであり、人間の生活が水を中心として行われてきたことは、歴史的事実である。

そして、水自身の持っている性質はとても多面的である。水面があれば、雨が降っているのか・太陽が照っているのか・風が吹いているのかを、水によって読み取ることができる。水は、鏡のような効果を持ち、ごくわずかな外的影響にも反応し、時にはその影響を増幅したり、意を立てたりと、環境を構成する物質である。さらには、人間の行動や行為に与える影響も様々である。流れる水や澄んだ水・花びらを漂わせて運ぶ水。あるいは、空間をまとめたり隔たり、その感じる内容によっては、人間の心を穏やかに、時には脅威を抱かせたりと、人間の心理に働き掛ける物質でもある。水は、環境構成物質でありながら、その多様な作用や姿を通じて人間の行動や心理に働きかけ、自然と共有環境を創出する媒体の役割を果たすものである。

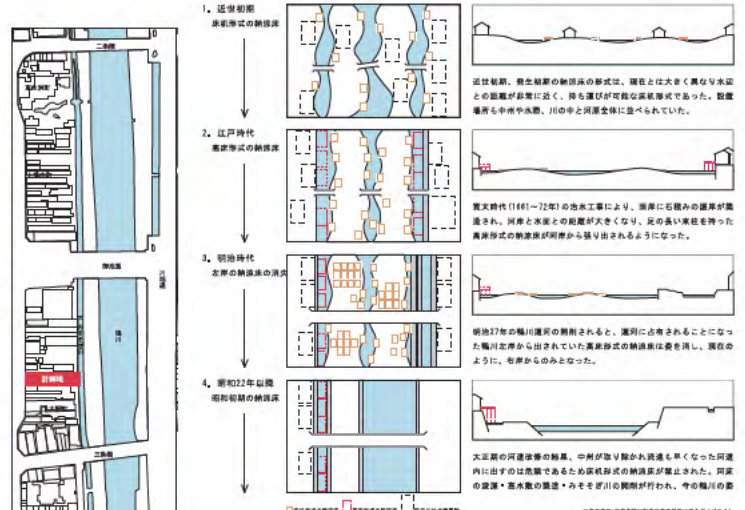
・背景



人は時に水を恐れ、時に水を利用しようとしてきた。水の確保は生活の絶対条件であり、様々な対策を講じて生きてきた。水を巧みにコントロールすることで、文化を高めてきた。

- 1 川面による條件
- 2 / ベネチア運河の交通
- 3 / 京都の納涼床の発展
- 4 / 京都の納涼床の発展

・納涼床の歴史



・敷地の現状

二条から五条にかけて納涼床が9軒ほど並び、その一部に位置する。百圓から輪川、みそぎ川、真駒が高瀬川に架かれたような土地に面し、東西方向に長い敷地である。輪川納涼床は、基本的に後の納涼床が中心であるが、5月・8月は夏の納涼床も流しめる。（集中豪雨防止のため、7・8月は夏の納涼床は営業しない。）本来の納涼床は水辺に近い親水空間として接われ、水と触れ合えるものであった。しかし、現在は、買物（観光）目的や景観としての納涼床となり、水との距離を見ても、本来の機能としては程遠いものとなってしまっている。

・十景の話



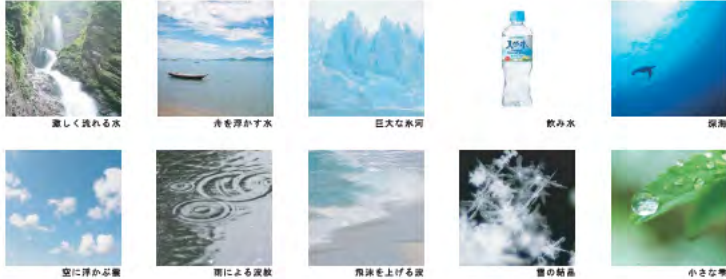
真尋町輪川集落においては、特に「輪川の石岸の二条大橋から五条大橋までの区間において、景観を豊かにするために設置される高瀬川形式の仮設の工物」（同条例14条）を関係者における輪川納涼床と認識し、それらについては知事が河川法許可の審査基準を定めるものとしている。水の濁り、川の盛り出し、浜の盛り上げ色鮮やかな景観の形成も定められており、浜は、原則として木高を使用するものとする。

納涼床は、再生や材料調達、お風呂さんなど数種の面白いイメージがある。実際に、その平均価格は6,000円〜12,000円であり、京都納涼床を味わうことのできる店舗が少ないのが現状である。

＊水を使うこと

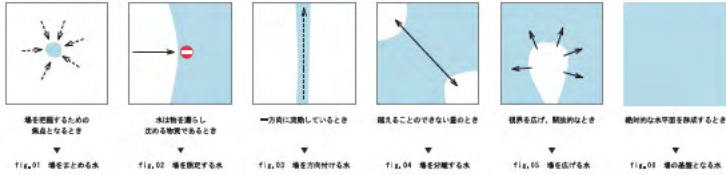
＋環境構成物質

水は、地球上で最も多量に存在する物質である。最もありふれたものでありながら多くの特異的な性質を持っている。我々は日常的に水の特異性に接して生活している。これら特異的な性質は、自然界の現象にも影響を及ぼしている。



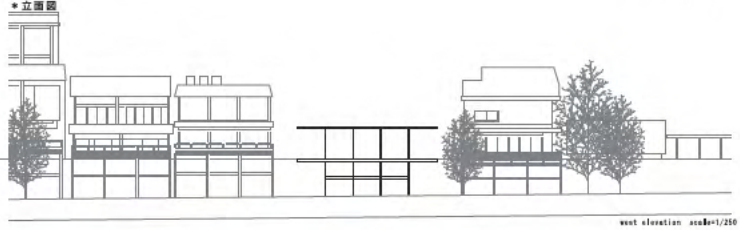
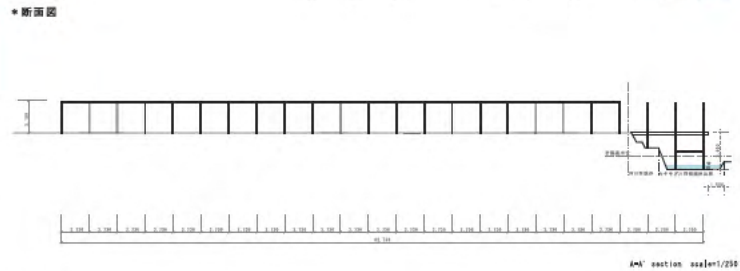
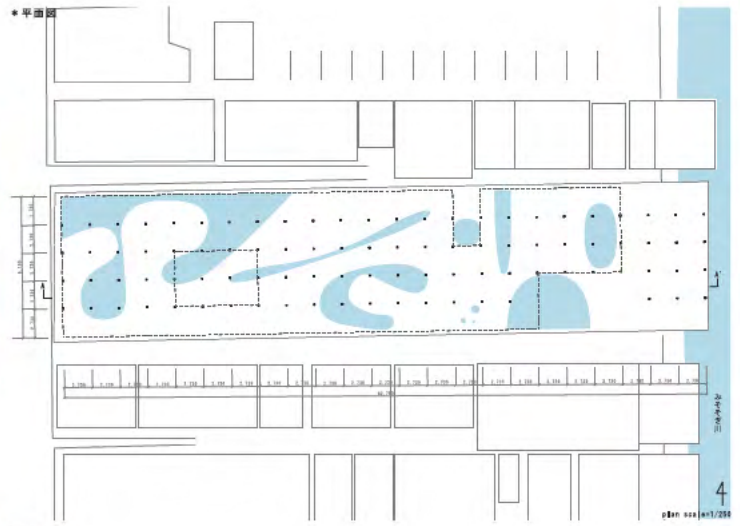
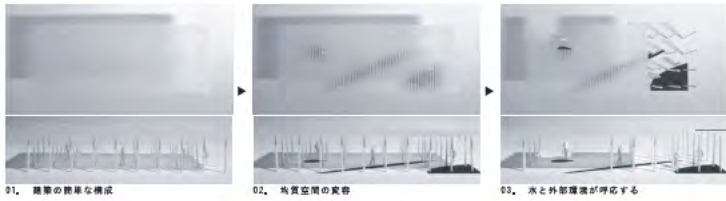
＋心構的作用

開放的な場所に水が入ると、行動や意識に変化が生まれる。水面は、人や場に適切な距離感を生み、建築空間を構成する要素と成り得る。



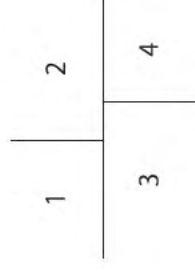
＊柱と屋根の関係を考えること

建築は、置った柱の上に屋根を架せた、単純な構成である。そこへ、水を引き込むことによって、均質な空間を発生させる。さらに、柱と屋根の関係を多様にする。柱と屋根の結び目を、少しだけ多様にするだけで、水が外部環境と対応しはじめ、空間を演出する。



水と建築（参考1）

*歴史から

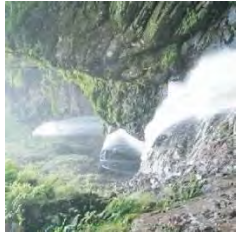


- 1/ 棚田による稲作
- 2/ ベネチア運河の交通
- 3/ 京都四条の納涼床の絵図
- 4/ 嚴島神社の鳥居

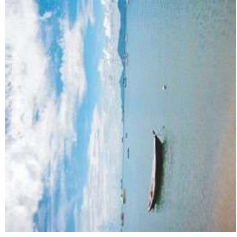
人は時に水に恐れ、時に水を支配しようとしてきた。また、水の確保は生活の絶対条件であり、様々な知恵を凝らしてきた。水を巧みにコントロールすることで、文化を形成してきたのである。

水と建築（参考2）

* 環境から



激しく流れる水



舟を浮かす水



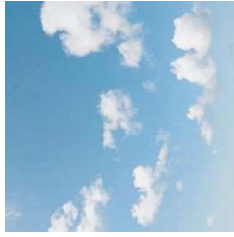
巨大な氷河



深海



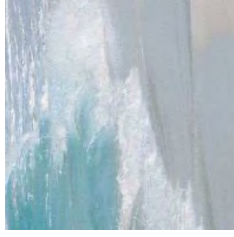
飲み水



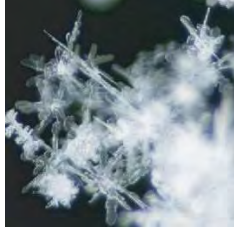
空に浮かぶ雲



雨による波紋



飛沫を上げる波



雪の結晶

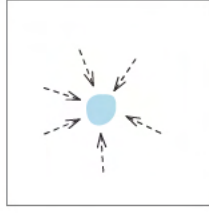


小さな雫

水は、地球上で最も多量に存在する物質である。最もありふれたものでありながら、多くの特質を持っている。我々は日常的に水の特質に接して生活している。これらの特質は、自然界の現象にも影響を与えている。

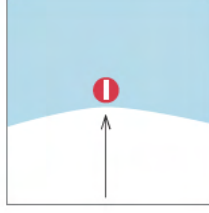
水と建築（参考3）

*心理から



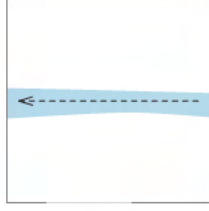
場を把握するための
焦点となるとき

fig. 01 場をまとめる水



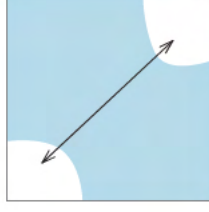
水は物を漂らし
泳ぐる物質であるとき

fig. 02 場を限定する水



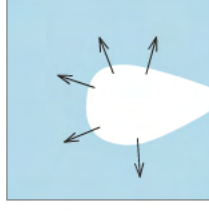
一方方向に流動しているとき

fig. 03 場を方向付ける水



越えることのできない壁のとき

fig. 04 場を分離する水



視界を広げ、開放的するとき

fig. 05 場を広げる水



絶対的な水平平面を形成するとき

fig. 06 場の基礎となる水

開放的な場所に水が入ると、行為や意識に秩序が生まれる。
水面は、人や場に適切な距離感を生み、建築空間を構成する要素と成り得る。